



に ご り え

寺田路恵芝居語り

原作〓樋口一葉
脚本・出演〓寺田路恵

と き:11月5日(木) 19時開演 開場 18時30分

と ころ:前原古材の森 前原市前原中央 3-18-15

(電話 092-321-4717 筑前前原駅から 412m)

入場料:2,500円

主 催:「夏の雲は忘れない」実行委員会準備会(090-9790-4712 伊藤)

わが恋は細谷川の丸木橋
渡るにや怖し渡らねば…

若くて美しいお力は銘酒屋「菊の井」の売れっ子酌婦。インテリで金離れの良い客、結城朝之助に惹かれています。彼女には、妻子を省みずにお力に入れてあげて身上をつぶし、今では裏長屋に落ちぶれ果てた源七との過去がありました。

* * *

樋口一葉は、死の一年余り前の間に、「大つごもり」「たけくらべ」「十三夜」などの名作を生み出しますが、「にぎりえ」も一葉の代表作です。「にぎりえ」は濁り川(どぶ川)に映る人生模様。底辺に生きる女性の哀歓を描き出した一葉の代表作です。

* * *

女優・寺田路恵さんの三味線の弾き語りによって、樋口一葉の名作があなたの前に再現されます。

秋の一夜、情緒溢れる芝居語りで楽しみましょう。

寺田路恵さんプロフィール

五代目嵐芳三郎の長女として東京都武蔵野市吉祥寺に生まれる。嵐圭史(前進座)は実兄。俳優座養成所を卒業後、文学座座員となる。1970年「ガラスの動物園」で芸術最優秀賞を受賞。1991年「グリークス」で紀伊国屋演劇賞個人賞・団体賞を受賞。舞台・映画・テレビで活躍中。

舞台 「女の一生」「華岡青洲の妻」
「三人姉妹」「セチュアンの善人」
映画 「ここに泉あり」「橋のない川」
「若者たち」

テレビ「泣いてたまるか 兄と妹」
声の出演「おもひでぼろぼろ」(たえこ母)
「チャングムの誓い」(チェコサンゲン)
朗読劇「夏の雲は忘れない」には「この子たちの夏」に続き毎年上演に参加し、来年7月の前原公演にも出演予定。

終演後、寺田路恵さんを囲んで、「夏の雲は忘れない」公演についての懇談会を行います。来年夏の糸島公演を成功させるように、皆様のご協力をお願いします。

樋口一葉と芝居語り「にこりえ」への想い

寺田路恵

樋口一葉は、明治五年生まれ。十九歳で小説家を志し、死の直前の十四ヶ月の間に「大つごもり」「たけくらべ」「十三夜」などの名作を書き上げ、二十四歳でこの世を去りました。しかし、その短い人生の密度の濃さは、私が、たとえ八十年生きても遠く及びません。

私は、一葉の日記を読んだときから、一層彼女にのめりこんでしまいました。家族への愛情と責任、恋と文学への思い入れ。美しい言葉の奥から聞こえてくるような女の息遣いが、私を捉えて離しません。その音は、聞いても聞いても止むことなく、私の女心に呼応するのです。

「にこりえ」の主人公おりきの喘ぎは、世間の冷たさ、人の言葉の無責任さ、そして成就しない恋に泣いた一葉の喘ぎそのもののように思えてなりません。死ぬ十四カ月前に書いた「にこりえ」ですが、一葉はおりきの命を、どんな気持ちで断ち切ったのでしょうか……。

日本の古典芸能が大好きな私。つたない三味線ですが、芝居と組み合わせることによって、相乗効果を生み出せたら！そんな思いから芝居語り「にこりえ」が生まれました。私の樋口一葉の世界。少しでも楽しんで頂けましたら幸いです。